令和７年度中学校国語　３年　出典一覧

単元	ページ	教材名	書名	著作者	発行所	刊行年
冒頭	前見返し2-3	見えないだけ	詩集　ことばの冠	牟礼慶子	花神社	1989年
	前見返し4	日本語の特徴	書きおろし	加藤周一		
一	16-17	春に	谷川俊太郎少年詩集　どきん	谷川俊太郎	理論社	1998年
	20-23	立ってくる春	あるようなないような	川上弘美	中央公論新社	2002年
	24-29	なぜ物語が必要なのか	書きおろし	小川洋子		
	34-44	私	集英社文庫『名もなき本棚』	三崎亜記	集英社	2022年
二	50-55	薔薇のボタン	2012年刊「学士会会報」第896号に掲載の文章をもとに一部加筆	梯久美子		2012年
	62-65	メディア・リテラシーはなぜ必要か？	書きおろし	森達也		
	74	四季のたより　春　春惜しむ 山里の春の夕暮れ来て見れば入相の鐘に花ぞ散りける（能因法師）	新編日本古典文学全集43 新古今和歌集	峯村文人　校注・訳	小学館	1995年
	74	四季のたより　春　春惜しむ ゆく春や重たき琵琶の抱き心（蕪村）	日本秀歌秀句の辞典	小学館辞典編集部	小学館	1995年
三	78-81	ＡＩは哲学できるか	朝日新聞　朝刊2018年1月22日　p37	森岡正博	朝日新聞社	2018年
	90	四季のたより　夏　夏の果 夕立の雲もとまらぬ夏の日の傾く山にひぐらしの声（式子内親王）	新編日本古典文学全集43 新古今和歌集	峯村文人　校注・訳	小学館	1995年
	90	四季のたより　夏　夏の果 やがて死ぬけしきも見えず蝉の声（芭蕉）	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
四	94-97	async――同期しないこと	書きおろし	坂本龍一		
	98-102	問いかける言葉	書きおろし	国谷裕子		
	116	四季のたより　秋　暮の秋 夕月夜をぐらの山に鳴く鹿の声のうちにや秋は暮るらむ（紀貫之）	新編日本古典文学全集11 古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	116	四季のたより　秋　暮の秋 行く秋や抱けば身に添ふ膝頭（太祇）	日本秀歌秀句の辞典	小学館辞典編集部	小学館	1995年
	118-126	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』　旅立ち	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	118-126	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』　平泉	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	118-126	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』　立石寺	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	120	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 あらたふと青葉若葉の日の光	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	120	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 田一枚植ゑて立ち去る柳かな	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	120	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 あやめ草足に結ばん草鞋の緒	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	120	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 五月雨をあつめて早し最上川	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	121	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 暑き日を海に入れたり最上川	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	121	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 荒海や佐渡に横たふ天河	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	121	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 あかあかと日はつれなくも秋の風	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年
	121	旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 石山の石より白し秋の風	新編日本古典文学全集71　松尾芭蕉集２	井本農一・久富哲雄・ 村松友次・堀切実	小学館	1997年

	129	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 春過ぎて　夏来たるらし　白たへの　衣干したり　天の香具山	新編日本古典文学全集6　万葉集1	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1994年
	129	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 田子の浦ゆ　うち出でて見れば　真白にそ　富士の高嶺に　雪は降りける	新編日本古典文学全集6　万葉集1	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1994年
	129	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 君待つと　吾が恋ひをれば　我が屋戸の　すだれ動かし　秋の風吹く	新編日本古典文学全集6　万葉集1	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1994年
	129	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 春の野に　かすみたなびき　うら悲し　この夕影に　うぐひす鳴くも	新編日本古典文学全集9　万葉集4	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1996年
	130	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 多摩川に　さらす手作り　さらさらに　なにそこの児の　ここだかなしき	新編日本古典文学全集8　万葉集3	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1995年
	130	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 父母が　頭かきなで　幸くあれて　言ひし言葉ぜ　忘れかねつる	新編日本古典文学全集9　万葉集4	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1996年
	130	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 瓜食めば　子ども思ほゆ　栗食めば　ましてしぬはゆ　いづくより来たりしものそ　まなかひに　もとなかかりて　安眠しなさぬ 反歌 銀も　金も玉も　何せむに　勝れる宝　子にしかめやも	新編日本古典文学全集7　万葉集2	小島憲之・木下正俊・東野治之	小学館	1995年
	131	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 袖ひちて　むすびし水の　こほれるを　春立つけふの　風やとくらむ	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	131	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 五月待つ　花たちばなの　香をかげば　昔の人の　袖の香ぞする	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	132	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 山里は　冬ぞさびしさ　まさりける　人目も草も　かれぬと思へば	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	132	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 思ひつつ　寝(ぬ)ればや人の　見えつらむ　夢と知りせば　覚めざらましを	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	133	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 春の夜の　夢の浮橋　とだえして　峰に別るる　横雲の空	新編日本古典文学全集43　新古今和歌集	峯村文人	小学館	1995年
	133	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 心なき　身にもあはれは　知られけり　鴫立つ沢の　秋の夕暮れ	新編日本古典文学全集43　新古今和歌集	峯村文人	小学館	1995年
	133	和歌の調べ　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 玉の緒よ　絶えなば絶えね　ながらへば　忍ぶることの　弱りもぞする	新編日本古典文学全集43　新古今和歌集	峯村文人	小学館	1995年
	136	風景と心情―漢詩を味わう 黄鶴楼にて孟浩然広く陵之くを送る	新釈漢文大系19　唐詩選	目加田誠	明治書院	1964年
	137	風景と心情―漢詩を味わう 春暁	新釈漢文大系19　唐詩選	目加田誠	明治書院	1964年
	138	風景と心情―漢詩を味わう 春望	漢詩体系　第9巻　杜甫	目加田誠	集英社	1965年
	141	風景と心情　みちしるべ 翠岑を下る	定本　良寛全集　第一巻　詩集	内山知也 谷川敏朗 松本市壽	中央公論新社	2006年
	142-157	最後の一句	鷗外歴史文学集　第三巻	森鷗外	岩波書店	1999年
	168-175	俳句の味わい	書きおろし	堀本裕樹		

六	168	俳句の味わい 渡り鳥みるみるわれの小さくなり	上田五千石全句集	上田五千石	富士見書房	2003年
	169	俳句の味わい おおかみに螢が一つ付いていた	句集　東国抄	金子兜太	花神社	2001年
	170	俳句の味わい ずぶぬれて犬ころ	住宅顕信句集「未完成」	住宅顕信	春陽堂書店	2003年
	170	俳句の味わい 火焔土器よりつぎつぎと揚羽かな	句集　熊野曼陀羅	堀本裕樹	文學の森	2012年
	172	俳句の味わい 春風や闘志いだきて丘に立つ	高濱虚子集　現代俳句の世界１	高濱虚子	朝日新聞社	1984年
	172	俳句の味わい 卒業の兄と来てゐる堤かな	不器男百句	坪内稔典・谷さやん	創風社出版	2006年
	172	俳句の味わい ものの種にぎればいのちひしめける	日野草城全句集	日野草城	沖積舎	1996年
	172	俳句の味わい 夏草やベースボールの人遠し	子規全集　第三巻　俳句三	正岡子規	講談社	1977年
	172	俳句の味わい 万緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男全集１『長子』『火の島』『萬緑』	中村草田男	みすず書房	1989年
	172	俳句の味わい かぶとむし地球を損なわずに歩く	句集　記憶	宇多喜代子	角川学芸出版	2011年
	172	俳句の味わい 星空へ店より林檎あふれをり	橋本多佳子全句集	橋本多佳子	KADOKAWA	2018年
	172	俳句の味わい 秋草にまろべば空も海に似る	定本　木下夕爾句集	木下夕爾	牧羊社	1972年
	172	俳句の味わい よし分った君はつくつく法師である	拝復	池田澄子	ふらんす堂	2011年
	173	俳句の味わい 冬菊のまとふはおのがひかりのみ	水原秋櫻子集　現代俳句の世界２	水原秋櫻子	朝日新聞社	1984年
	173	俳句の味わい 木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ	加藤楸邨集　現代俳句の世界8	加藤楸邨	朝日新聞社	1984年
	173	俳句の味わい 息白くやさしきことを言ひにけり	後藤夜半全句集	後藤比奈夫	沖積舎	2002年
	173	俳句の味わい 分け入つても分け入つても青い山	定本　種田山頭火句集	種田山頭火	彌生書房	1971年
	173	俳句の味わい 咳をしても一人	尾崎放哉　句集（二）	尾崎放哉	春陽堂書店	1990年
	173	俳句の味わい 戦争が廊下の奥に立つてゐた	渡邊白泉全句集	渡辺白泉	沖積舎	2005年
	174-175	句会を楽しもう	書きおろし	堀本裕樹		
	174	句会を楽しもう 向日葵を手向け何から話そうか	蒼海　創刊号	加留かるか	蒼海俳句会	2018年
	177	初恋　学びナビ あかん	大阪ことばあそびうた	島田陽子	編集工房ノア	1986年
	178-179	初恋	藤村全集　第一巻	島崎藤村	筑摩書房	1966年
	182-196	故郷	魯迅文集 １	魯迅／竹内好　訳	筑摩書房	1991年
	211	学びのチャレンジ　宇宙からの贈りもの	宇宙からの贈りもの 一部改め	毛利衛	岩波書店	2001年
	212	学びのチャレンジ　人間と科学・技術	人間と科学・技術	志村史夫	牧野出版	2009年
七	224-226	持続可能な未来を創るために 生命とは何か	『生物と無生物のあいだ』を加筆修正	福岡伸一	講談社	2007年
	227	持続可能な未来を創るために 地球は死にかかっている	ガラスの地球を救え　二十一世紀の君たちへ	手塚治虫	光文社 （知恵の森文庫）	1996年
	229	持続可能な未来を創るために 参考　リルケの言葉	若き詩人への手紙・若き女性への手紙	リルケ／高安国世　訳	新潮社（新潮文庫）	1953年（初版） 2013年（65刷）
	230	持続可能な未来を創るために 水の星	倚りかからず	茨木のり子	筑摩書房	1999年

	232-235	「対話力」とは何か	書きおろし	多田孝志		
	244	四季のたより　冬　歳の暮 あらたまの年のをはりになるごとに雪もわが身もふりまさりつつ	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂	小学館	1994年
	244	四季のたより　冬　歳の暮 うつくしや年暮れきりし夜の空	新編日本古典文学全集72 近世俳句俳文集	雲英末雄・山下一海・丸山一彦・松尾靖秋	小学館	2001年
八	246-262	バースデイ・ガール	バースデイ・ストーリーズ	村上春樹	中央公論新社	2003年
	264-267	青春の歌　無名性の光	書きおろし	穂村弘		
	264	青春の歌　無名性の光 雲を雲と呼びて止まりし友よりも自転車一台分先にゐる	夏鴉　澤村斉美歌集	澤村斉美	砂子屋書房	2008年
	265	青春の歌　無名性の光 「うごく」「いや動かない」「いや」真夜中に二人そろっ てまりもを見張る	イチゴフェア　伴風花歌集	伴風花	風媒社	2004年
	266	青春の歌　無名性の光 互いしか知らぬジョークで笑い合うふたりに部屋を貸し て下さい	歌集　くびすじの欠片	野口あや子	短歌研究社	2009年
	266	青春の歌　無名性の光 椅子にもたれ椅子を回せる数秒のあらば　思えよあの夏 のわれら	歌集　ぼんやりしているうちに 塔21世紀業書第百十一篇	永田紅	角川書店	2007年
	266	青春の歌　無名性の光 実業に就きたる君の日常に鳥は飛んではこないのだろう	ぼんやりしているうちに	永田紅	角川書店	2007年
	266	青春の歌　無名性の光 そしてそのままに椅子より立ちあがり午後の会議へ出でてゆくべし	ぼんやりしているうちに	永田紅	角川書店	2007年
	266	青春の歌　無名性の光 どこに行けば君に会えるということがない風の昼橋が眩しい	歌集　日輪	永田紅	砂子屋書房	2000年
	266	青春の歌　無名性の光 ああ君が遠いよ月夜　下敷きを挟んだままのノート硬くて	歌集　日輪	永田紅	砂子屋書房	2000年
	267	青春の歌　無名性の光 十代にもどることはもうできないがもどらなくていい　濃い夏の影	歌集　乱反射	小島なお	角川書店	2007年
	268-269	やわらかな想い	まるむし帳	さくらももこ	集英社	2003年
言葉の自習室	298-301	素顔同盟	火星の砂時計	すやまたけし	サンリオ	1988年
	302-304	語り継ぐもの	書きおろし	吉永小百合		
	305	語り継ぐもの 永遠のみどり	定本　原民喜全集Ⅲ	原民喜	青土社	1978年
	306-307	言葉でつかんだ世界ー	取材をもとに構成	国枝慎吾		